

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年) : 法文学部・1年

氏名 : 高原 朋子

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	米国・カリフォルニア(サンフランシスコ、サンノゼ、ソノマ)
研修期間	2018/2/17 ~ 2018/3/4
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>この二週間という研修を通して、カリフォルニアの様々な文化を学んだ。まず、日本にいたときは全く知識の無かった日系アメリカ人の歴史を知ることができた。それはカリフォルニアのJapan townを訪れた時に現地の日系アメリカ人の方が、博物館を案内しながら、日本人がキャンプに入らされたことや、キャンプはキャンプでも沢山の種類のキャンプがあること、アメリカに渡った日本人の第1世代のことを一世ということ、偏見や差別に苦しんだ日系アメリカ人だったけれども、逆にキャンプに入ることによって安全だったり、生活は苦しくてもみんな協力して、明るい方に明るい方に考えようと倒れてもまた立ち上がる当時の日本人の強さを学んだ。実際に日系アメリカ人が使っていた道具やキャンプの部屋の中を再現したところも見せてもらいその時の日系アメリカ人の生活に思いを馳せることができた。これは日本にいる時には経験出来ないし、考えることも無かったと思う。そのほかにも日本と比べることができた点はサンフランシスコで見るホームレスの多さであった。人口が多いというのもあると思うが、こんなにも貧富の差が目に見えるのには驚いた。教会でホームレスの方に食事を提供するというサービスがあったのだが、まず言語の違う人たちのお願い事や注文を聞き分けるのは簡単では無かった。何度も同じ注文をしてくる人や、怒声を浴びせてくる人もいて、コミュニケーションを取るのに必死であった。しかし、現地の人のフォローや、周りの助け、そしてホームレスの方からの助けもあり、無事にボランティアを終えることができた。やっている時は必死だったが、終わった後は達成感を感じることができた。その他にもソノマに行った時には、消防士の人のほとんどがボランティアなことや、病氣の人に食事を届けるボランティアを行っているセレスという施設ではたくさんのティーネイジャーが働いている事実、ボランティアで事が回っている街なのだとわかった。しかし、それは逆に考えると政府があまり支援をしてくれないという事なのだという事実も改めて感じさせられた。このようにして、様々な日本との文化の違いに気づくことができた二週間であった。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>日本に帰ってきて、やはり英語の勉強をより深くしなければならぬと考えた。だから今年はTOEICをはじめ、英語の検定や、フランス語の検定など様々な語学を身に付けたいと思ったし、せっかくパスポートを取ったので、また研修に参加したり、他の国にも訪れたいと思う。さらに、外国のことだけでなく日本の歴史や文化でもまだ知らないことが沢山ある事を知った。この機会にもっと日本のことを知りたいとも考える。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年) : 農学部・1年

氏名 : 鬼塚 綾花

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	米国・カリフォルニア(サンフランシスコ、サンノゼ、ソノマ)
研修期間	2018/2/17 ~ 2018/3/4
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回の研修を通して私はアメリカの経済格差や社会福祉について学び、今後の自分のあり方を考えさせられる大きなきっかけを得ることが出来た。私はこれまでアメリカという国に対して、裕福で産業の面においても常に最先端を進む華やかなイメージを持っていた。しかし、実際に現地を訪れ生活する中で私が持っていたイメージとは大きく異なった一面がある事を知った。多くの人々が行き交う大通りから外れた通りに入ると道端にはゴミが捨てられ、老若男女問わず多くのホームレスの人々がそこで生活していた。教会で貧困層にある人々へ朝食配布のボランティア活動を行ったときには、長蛇の列が出来るほど人々が殺到し、わずかでも食べ物が残っていれば持って帰ろうとする人々の様子を目の当たりにした。現地の人々の話によると、このような現象が起きている背景にはアメリカの社会福祉の手薄さがあるという。これらのことから、私は日本とアメリカにおける社会福祉制度の大きな違いを学んだ。しかし、同時にアメリカで暮らす人々のボランティア精神であったり地域貢献への意識の高さを感じた。貧困層にある人々へ食事を提供する施設では多くの学生が無償で働き、私たちがカリフォルニアで起きた火災への募金活動を行ったときには、私たちの前を通るほとんどの人々がたくさんのお金を寄付してくれた。日本ではあまり見受けられない光景であったように思う。日本は、アメリカに比べ社会福祉制度が充実し、災害における援助活動も手厚いため、実際に貧困や災害被害で困っている人々の現状が表面化しにくい。そのため、自ずと日本人は慈善活動への意識が低くなってしまっているように思う。私は、実際に貧困層の方々への食事提供のボランティアであったりそのような環境下にある人々に配布するための食料の袋詰め作業を行ったことで、何も見返りを求めずに他人のために尽力し続ける事がいかに難しく、また、偉大なことであるかを身をもって感じた。</p> <p>今回アメリカを訪問する機会を頂いたことで、日本での日常生活だけでは得られない貴重な経験ができ、同時に今後の学びの糧となる重要なことに気づくことができた。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回の研修を通して、他国の文化や国家の体制を間近で学んだことで、自分たちが暮らす日本の現状や今後の自分のあり方について考える大きなきっかけを得ることができた。これからは、世界で起こっている様々な出来事に興味をもち、新たな考え方や知識を自分の中に取り込んでいくためにも、グローバルな視点をもって、日々の学生生活を過ごしていきたいと思う。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年) : 法文学部・2年

氏名 : 西留 くらら

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	米国・カリフォルニア(サンフランシスコ、サンノゼ、ソノマ)
研修期間	2018/2/17 ~ 2018/3/4
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>まず、私がこの研修に参加した目的は自分の経験値を高めることでした。元々アクティブな活動に参加することに怖じ気づく方で、語学力にも自信はありませんが、こんな自分を少しでも変えたいという思いで参加しました。結果、2週間はあっという間で、帰国した自分は少しだけ成長したような気持ちでとても嬉しくなったのが率直な感想です。具体的に述べると、まず拙い英語でも失敗を恐れずに外国の人と交流しようと励みました。相手の英語を完璧に把握することはできませんが、相手も自分とのコミュニケーションに前向きな姿勢を見せてくれることが多く、楽しく交流ができた方だと思います。また、様々な活動にも取り組みました。日本にいればなかなか触れることのなかった日系アメリカ人の歴史について学んだり、フードバンクや教会で食事が不十分に摂れない人たちのためにボランティアをしたりしました。アメリカの歴史は勿論、今アメリカが抱える社会的問題にも一部ではありますが踏み入れることができましたと思います。ボランティア精神が高く、コミュニティ全体が地域貢献を望んでいたりと、それを生きがいにしている人によってボランティアは成り立つものだと感じました。</p> <p>現地の人の温かさに触れたことも私の財産の一つです。サンノゼ州立大学の学生さんとの交流も日本文化の話題で盛り上がり、とても緊張していたホームステイでも優しいホストファミリーに恵まれました。海外に友人や知り合いができるという経験自体が初めてだったので新鮮でした。勇気を出して本当に良かったと思います。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>自分自身の自信につながった研修だったので、学業に対してのモチベーションが上がりました。同時に疎かにしていた英語の必要性も強く感じたので、専門分野に加え英語の勉強にしっかり励もうと思いました。個人的には来年度は3年生になるため、そろそろ将来の準備を具体的に始めなければなりません。研修前に具体的に決まらなかった目標が、研修後に定まったのも自分に自信がついたお陰かもしれません。この研修を胸に頑張っていきたいです。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年) : 水産学部・1年

氏名 : 原 愛理

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	米国・カリフォルニア(サンフランシスコ、サンノゼ、ソノマ)
研修期間	2018/2/17 ~ 2018/3/4
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>この研修を通じて学んだことはたくさんあるが、特に印象に残ったものがある。それはアメリカの貧困についてである。アメリカでは貧富の差が激しいことを目の当たりにして様々なことを考えさせられた。裕福な人が公園で遊んでいたり、大きな家に住んでいる一方で、道路で寝たり、ゴミ箱をあさるホームレスの人がいることを知った。アメリカに行く前は、これほどはっきり目に見えるほどの貧富の差があることを知らなかった。また、今回低所得の方に朝食を提供するというボランティアに参加させていただいた。そこにはとても多くの人 came。子連れの人や車いすの人、お年寄りや中国人、ホームレスの人など年齢や性別など様々だった。私はこれほど多くの人々が貧しい生活をしていることに驚いた。日本では多少の貧富の差があっても、これほどの差はないと思う。その点は日本の良い所だと感じた。また、日本では貧しくても読み書き、計算などの最低限の勉強はできる。そのため、日本の識字率は非常に高い。アメリカに行ったことで、これはすごいことなのだと気づくことができた。アメリカでは学校での教育費が高いため、貧しい人は学校に行くことができない。そのような子供はきちんとした職業に就くことができないため、悪循環になるのではないかと思った。しかし、アメリカにはそんな人々を助けようとボランティアをする団体も多いことを知った。日本ではそのような支援は政府がすることが多いが、アメリカではボランティア団体が支援していた。個人の意思でボランティアをやっているところがアメリカらしいと感じた。</p> <p>今回の研修では、アメリカに行かなければ興味を持たなかったことを学ぶことができた。また、アメリカに行ったことで気づくことができた日本の良い所も見つけることができた。自分の英語力を試してみたいという気持ちがあったが、それも十分に試すことができた。そして、まだまだ勉強する必要があると実感した研修になった。今回の研修ではたくさんの良いものを得ることができた。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回の研修で自分の英語力のなさを実感した。自分の伝えたいことを思い通りに伝えられないもどかしさを知ることができた。今後は英語の勉強に励もうと思う。文章や文法が間違っても、伝えたいことは伝わると分かったが、単語を知らなければ相手の話を理解できないし、話すこともできないと実感した。今後は単語の勉強を特に力を入れてしようと思った。また、国際状況や外国のことを何も知らなかったなので、そのことにも興味をもって勉強してみようと思う。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年) : 法文学部・1年

氏名 : 黒瀬 大夢

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	米国・カリフォルニア(サンフランシスコ、サンノゼ、ソノマ)
研修期間	2018/2/17 ~ 2018/3/4
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私が今回カリフォルニア研修に参加した大きな理由は、長期留学を目指すうえで必要なことを見つけることでした。私は将来海外に鹿児島の焼酎を広めたいと考えており、そのためにはどこへ行くべきか、どのようなことを学ぶべきかを現在模索しているところです。ここでは研修の成果として、焼酎の認知度、お酒の役割について述べたいと思います。まず、アメリカにおける日本の焼酎の認知度。サンフランシスコの町の人々やリカーショップの店員、サンノゼ州立大学の生徒やホストファミリーの方々などたくさんの人に日本の焼酎について知っているか聞いてみましたが、全くと言っていいほど知られていませんでした。唯一言葉だけ知っていたのはソノマの蒸留酒工場の人だけでした。しかし知られていないということはまだ誰もプロモーションをうまく成しえてないということなので、私的にはやりがいが増えました。そして興味深かったことが、ほとんどの人が韓国の焼酎(ソジュ)を知っていたことです。これは海外に日本の焼酎を広めるための手掛かりになると私は考えております。次にお酒の役割について。私は、お酒は人々が交わし合うことで楽しい時間をつくることができ、よりよい関係を築いてくれるツールだと考えております。先程同様現地のいろんな方々に、「あなたはなぜお酒を飲みますか。あなたにとってお酒とはどのような存在ですか」と質問してみました。そしてほとんどの方の答えが、楽しむものでした。このことからお酒は楽しむものという共通認識が海外にもあることがわかりました。また、日本人よりもお酒に強い人が海外には多いことから、お酒がにがてな人がインタビューした人の中にはいませんでした。むしろお酒が大好きな人が多く、焼酎に関心をもってくださいる人がたくさんいて、広めたい側としても自信ができました。以上が今回の研修の成果です。長期留学で必要なことを見つけるというよりも、日本の焼酎に対する海外でのポテンシャルを強く感じる事ができたことが大きな収穫だったと思います。また、焼酎のプレゼンテーションを実際に行ってみて、これから海外で焼酎を紹介する第一歩を踏み出せました。今回の研修を励みにして、これからも焼酎を広めるための努力をしたいと思う。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回の研修で、韓国の焼酎が海外で有名であることがわかった。このことから、韓国には焼酎を海外に広めるための手があるのではないかと考えています。調べてみると、韓国はアジア圏で飲酒量が大変多いことや、お酒の海外輸出も盛んだということがわかりました。長期留学も韓国を現在考えており、そのための言語取得等の準備を今年度は行いたいと思います。また、ホストファミリーとの縁を大切に、これからはより精練された英語を使えるように勉強を頑張って連絡をとり続けたいと考えている。また、海外へ渡ってみたい人への手助けもしたいと思います。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所 属 (学部 (研究科) ・学年) : 医学部 ・ 2年

氏 名 : 山 上 真 以

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先 (国・地域) 滞在地	米国・カリフォルニア (サンフランシスコ、サンノゼ、ソノマ)
研修期間	2018/2/17 ~ 2018/3/4
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>約2週間の海外研修のうち前半約1週間は、サンフランシスコでチャイナタウン、カストロ地区などを訪れ、人々の多様性が生み出す文化に触れることができた。また、現地の大学生とのプレゼンテーション交換、相互質疑応答では、同世代・同じ大学生という立場で会話をすることができた。前半1週間の宿泊先はホステルで、その雰囲気は、日本で言う少年自然の家のようなものであった。1つの部屋には複数のベッドがあり、異なる国々から来た方も宿泊しており、次の目的地などについての会話をする機会を得た。他にも、ホステルのフロントや共同のシャワー室、朝食時のラウンジ等で、異文化圏の人々とのやりとりを少しずつ増やし、英語を話すことに少しずつ慣れ始めた頃に、海外研修後半に突入。ホームステイ先のセバストポール (ソノマ郡) へ移動した。海外研修後半は、ソノマ州立大学で講義を受け、その後講義で習った内容に関連する地域を訪れたり、ホストファミリーに観光地や買い物に連れて行っていただいたりした。その中で、特に大学の講義中は、全て英語での説明だったため、内容の理解が難しい部分が多く、語彙の不足を痛感した。帰宅後、ホームステイ先では、会話での失敗を恐れる気持ちを抑えつつ発音にできるだけ気をつけ、わからないことを尋ねたり、自分の意思を伝えたりすると、その都度わかりやすい英語を使っているという配慮をくださった。今回の研修のテーマには地域貢献があったが、むしろこちらが学ばせていただくことばかりだった。例えば、ボランティアで、教会でホームレスの人々に食事を提供するお手伝いを体験させていただいた際には、貧富の格差が生む現実の一部を見ることができたり、フードバンクで梨の袋詰めをした際には、その一角に貧しい人でも尊厳を保って買い物をできるように、安い値段で買い物ができる場所があるということを知ったり、病気の人やその家族に、健康に良い食事を提供する施設 (Ceres) があるということに感銘を受けたり、日本より様々な募金活動が行われているということを知ったりした。加えて、専門分野に関連する現地病院視察を通して、看護職の働き方を横断的に比較できたことも、現地に行ったからこそできた経験となった。また、ピアノを弾き、音楽を通して人々と交流できたことも良い経験となった。実に様々な国からの移民が多く暮らしているカリフォルニア。研修前は、人目につかないところで自分が差別を受けないかという一抹の不安もあったが、自分は幸い差別を受けることなく、現地の良識ある人々に恵まれた。さらに、異文化の中で、自らの積極的な一面にも出会うことができたことも大きな収穫となった。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>日本に居ても外国人をよく見かけるようになった今、語学力を高めていくことはもちろん、普段から、それぞれの文化圏の歴史、現在の情勢について学ぶように習慣づけたいと思った。なぜなら、今回の研修の自分の目標であった「新たな視点を得ること」を十分に達成することはできず、そのことは、語彙の不足とそれぞれの文化についての知識の不足に起因していると考えたからだ。また、それらの心掛けは、もし今後海外に行く際に役立つだけでなく、日本にいる外国人と交流する際にお互いに過ごしやすい関係をつくるための助けとなるだろう。感謝・思いやり等の普遍的な感情を忘れず、社会人になる前から語学力の向上と自己の内面の成長のどちらも目指すことで、自分の将来の可能性を広げていきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年) : 水産学部・1年

氏名: 田島寛大

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	米国・カリフォルニア(サンフランシスコ、サンノゼ、ソノマ)
研修期間	2018/2/17 ~ 2018/3/4
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私が今回の研修で感じたことは、日本とカリフォルニアにおける国際社会に対する考え方には大きな差があるということだ。カリフォルニアはアメリカ国内でも有数の多民族地域である。今回の研修では日系移民はもちろんアジア系、ヒスパニックなど多くの人種の方と触れ合う機会があった。その中で感じたことは、多くの人が国際社会に関心を持ち、国際社会の実現に肯定的な考えを持っているということである。サンノゼの日本町にある日系博物館では、トランプ政権の政策の影響もあり近年入場者数が大幅に増えているという。ここでは、キャンプの復元の展示などがあり、日系移民が戦争中に受けた扱いを詳しく知ることができる。当時日本人が受けた迫害が再び今度はヒスパニックの方々に起きようとしている。そんなことは決してあってはならないという強いメッセージを受けた。また、ホームレスの方に対する扱いの差にも大きな衝撃を受けた。カリフォルニアでは、ホームレスの方は他の人から保護を受けて当たり前という風潮なのである。この背景は、他の国からアメリカにわたってきたという向上心、また、新たな企業を起こそうという探求心を援助しようという風潮に町全体がなっているということだ。その地に元からいる人間を優遇するのではなく、新たなことに挑戦する人材を援助するという意思を感じることができた。このような風潮があるからこそ、サンフランシスコは世界の中核であるアメリカの中でも新興企業の密集地となっていると感じた。このように、カリフォルニアは国際社会に非常に肯定的に考え方をもち、またそれを実行している地域として、日本も学ぶべき点は多いと感じた。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回はカリフォルニアで約二週間滞在する研修だったが、アメリカのその他の州や、ヨーロッパの国々など違う地域の人々にも触れ、もっと多くの考え方を知りたいと思った。また、自分の今の語学力ではその地域の人の考えのほんの一部しかくみ取ることができないため、次回の留学までに語学力の向上は必須であると感じた。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年) : 農学部・1年

氏名 : 米田 愛理

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	米国・カリフォルニア(サンフランシスコ、サンノゼ、ソノマ)
研修期間	2018/2/17 ~ 2018/3/4
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私は、今回の研修を通して、主に3つの成果を得たように思います。一つ目は、アメリカの大学に実際に通ってみて、英語を話すこと以前に、自分の授業に取り組む姿勢について考え直すことができました。アメリカの授業では、常に一人一人の意見や考え、または質問を求められるため、私自身も自分の意見を持ち、吟味しながら聞く必要がありました。さらに、一クラスがとても少人数であるため、教師との距離がとても近かったように感じました。鹿児島大学では、授業を他人事のように聞き、淡々と時間を過ごすことが多かったけれど、今回の研修を通して、このままではだめだと感じました。今回アメリカの大学に通い、英語力を上げたいと思ったのはもちろんのことですが、一つ一つの授業をもっと真剣に受け、自分の意見を持たなければならないと思いました。二つ目は、アメリカで行われていたボランティア活動についてです。病気の方に栄養のある食事を無料でお届けするボランティアや、ほとんどの人がボランティアで構成されている消防署で話を聞き、初めて知るアメリカの姿がありました。私自身、日本でボランティア活動に無縁だったため、同じような活動が日本にはないのか興味を持ちました。また、一つのボランティア団体が、一つの会社のように大きく存在感があり、日本とは違う文化を感じることができました。三つ目は、今回初めてホームステイを経験して、何事も積極的に行動することが大事だと気づきました。英語力には自信がなかったけれど、積極的にホームステイ先の家族と会話をしていくうちに、少しずつ言いたいことが言えるようになりました。そのおかげで、ホームステイ先の家族とも、より親睦を深められたように思います。また、みんなの前で意見を述べたり、発言することが苦手でしたが、今回の研修を通して、以前より堂々と発言できるようになりました。これも、積極的に自分の意見を述べることで自信がついたおかげだと思っています。私は、以上の成果を得られたため、今回研修に参加できて本当に良かったと思いました。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>短い期間でしたが、今回研修に参加し、自分の英語力のなさに気づきました。特に、言いたいことを英語に直す作業に時間がかかりました。だから、今後は自分の意見を英語に直す練習をしていこうと思います。そして、英語力を上げて、もう一度アメリカに行きたいです。また、アメリカの大学での生活を思い出し、一つ一つの授業を大切にしようと思います。それから、身近なボランティアについて探し、少しでも地域に貢献できればよいなと思います。</p>	